

今週のお祈り 大斎節前主日特禱

神よ、あなたはそのひとり子の受難の前に、聖なる山の上でみ子の栄光を現されました。どうかわたしたちが、信仰によってみ顔の光を仰ぎ見、自分の十字架を負う力を強められ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられますように、主イエスキリストによってお願いいたします。アーメン

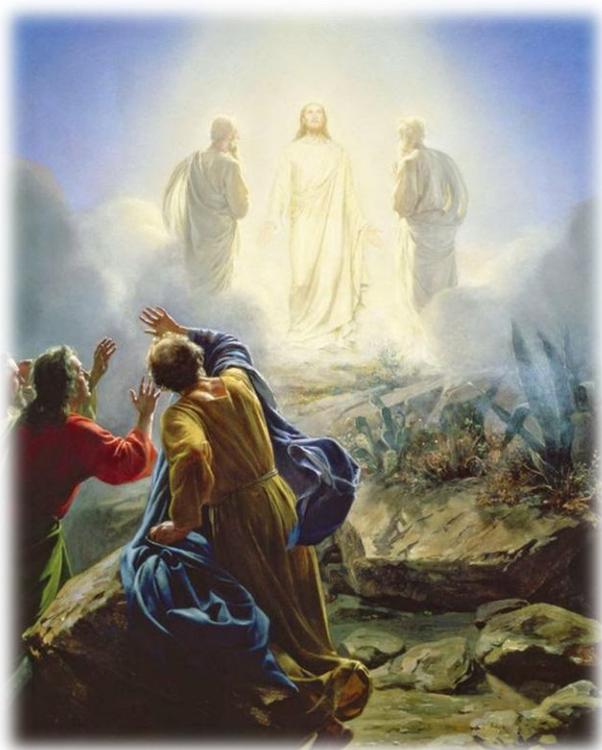


日本聖公会 東京教区  
聖パウロ教会 にちようがっこう  
〒153-0053 目黒区五本木 2-20-1  
でんわ：03-3710-6031

号外 288

発行日  
2026年  
2月15日

今週2月18日は「灰の水曜日」。この日から大斎節に入ります。教会では昨年の棕櫚の十字架を燃やした灰で、主教様が私達の額に十字架を記す礼拝が行われます。その灰にはどんな意味があるのかな？



今週の聖書 マタイによる福音書 17:1-9

1 六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。2 すると、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。3 見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。4 ペトロが口を挟んでイエスに言った。「主よ、私たちがここに居るのは、すばらしいことです。お望みでしたら、ここに幕屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのために。」5 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、雲の中から、「これは私の愛する子、私の心に適う者。これに聞け」と言う声がした。6 弟子たちはこれ

聖書からのメッセージ

執事 林 汶慶

イエスさまは山の上で、いつもと違う光り輝く姿になった。弟子のペトロは、その姿を見て、とてもうれしくて、「ずっとここにしよう」と言った。辛いことや、怖いことを考えなくていい、この場所にいたかったのだ。

でも、そのとき、天から「これはわたしの愛する子、このイエスの言うことを聞きなさい」という声がした。弟子たちは怖くなったが、イエスさまはやさしく言った。「だいじょうぶ、怖がらなくていいよ」そして、弟子たちといっしょに、山を下りた。ずっと楽しい山の上にいるのではなく、辛いこともある町へ向かったのだ。

私達も、辛いときや逃げたくなるときがある。でも、そのときも、イエスさまはそばにいてくださる。手を取って、「いっしょに行こう」と言ってくださる。楽しいときも、辛いときも、イエスさまはいつもいっしょに歩いてくださる。

を聞いてひれ伏し、非常に恐れた。7 イエスは近寄り、彼らに手を触れて言われた。「立ち上がりなさい。恐れることはない。」8 彼らが目を上げて見ると、イエスのほかに誰もいなかった。9 一同が山を下っているとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことを誰にも話してはならない」と弟子たちに命じられた。